

## 正誤表

第1番 Courante 5小節目 1拍目のスラーは4つの音符全部ではなく、3つと1つ。

第2番 Courante 20小節目のスラーはCからBまで7つの音符に。

第5番の BWV 番号は 1009 ではなく 1011。

第5番 Gavotte 25小節目の2拍目(2拍子の)は上のB(記譜のC)のみ、下に書かれているFは四分休符。

第5番プレリュードの73小節目5つめの音はB(記譜のC)

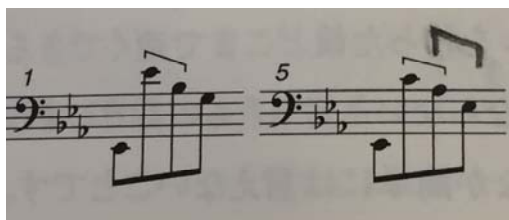
第6番 Allemande 3小節目3拍目、5つめの音符から4拍目の最初の音まで、3度下で(全体はアルト記号の中、その部分だけテノール記号になっている)。

11小節目3拍目の和音、一番下のみ3度高い(テノール記号になっている) 解説本の譜例も同じ。

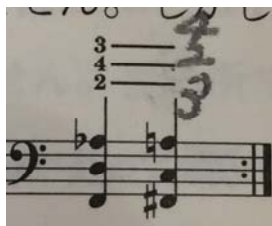
第6番 Gigue 7小節目、最後の8分音符はAではなくG。

解説本の p.73、第2番メヌエット最初のページの譜例で(Brahms violin concerto)となっているのは Brahms の間違い。解説本 P. 220、用語解説の中の「属7」の項で、『C dur なら C-E-G-H のこと』は C-E-G-B の間違い。同様に属9も C-E-G-B-D。

解説本 p.116、



解説本 p. 133、



解説本 p. 149、13行目 『無伴奏ヴァイオリン・ソナタ2番は』 「無伴奏ヴァイオリン・パルティータは」の間違い。

解説本 p. 168、3行目 『Eの間違いだ』 書かれる音はたしかにEですが、鳴る音はEs。

解説本 p. 187 1拍目にDの音が重なっているが、Hのみ。

